ジェントリフィケーションを考える

ジェントリフィケーション(Gentrification、以下 JF と略)は、都市地理学などで諸説があるが、広い意味の「都市更新」と言えよう。

写真は脱工業化研究会『トリノの奇跡』藤原書店、2017 年所収の矢作弘「ジェントリフィケーションを考える」掲載の図である。「空間の生産」として JF を解読しようとした主唱者のスミスは、JF は不動産（土地、及び家屋）市場の変容が引きおこす空間の再生産である。したがっていわゆる「都心回帰運動」の主役はアーバンパイオニアと呼ばれる一群の人々ではない、そうではなく資本の回帰運動こそが「都心回帰運動」の立役者であると主張した。そして、そうした立役者は、金融資本、デベロッパー、政府などの「集合的推進力」（矢作の造語）として立ち現れると論じた。

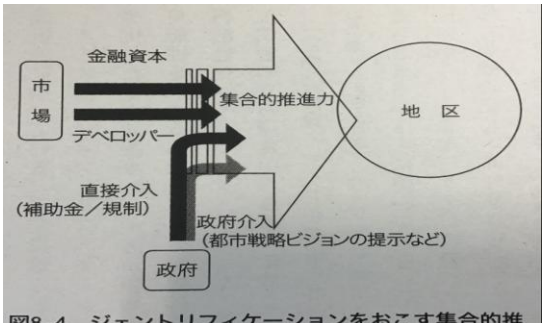

図8–4　ジェントリフィケーションをおこす集合的推進力（(Smith 1996)を参考に筆者が作成した）

（JF を通じて進む衰退地区の「改善」と都市更新プロジェクトとして取り組まれる大規模都市再開発）　双方をめぐる都市空間の変容をめぐっては、ポスト工業化をきっかけに、そしてグローバル化を背景にして放出された空間に、政府が介入し、金融機関がカネを貸し込む「集合的推進力」が稼働して進行する。製造業の衰退した都市の都市政府は、新しい都市型産業を育成し、ポスト煤煙型産業の都市イメージを構築することに躍起になっている。それに伴走して金融機関は「都市再生」を謳う空間開発・産業開発に余った資金を貸し込むことに必死である。

写真下は、矢作弘『都市危機のアメリカ』表紙カバー掲載「マンハッタンにある人気の公園ブライアントパークには、ホームレスなどは排除されて入れない」とある。JF を象徴する写真である。

JF は経済活動（市場）がつくり出す都市現象だが、それに終始するものではない。そこでは政府の役割も大きい。政府は介入を通して JF が起きやすい、加速する条件を整備する。「民間資本と政府の結託」こそが、JF が起きる前提になる。ニューヨークの場合、ブルームバーグ市長の都市改造・「贅沢都市づくり」が JF、経済格差と分断を促進させていった。

ニューヨークなどの JF の光と影から、なんだか大阪の都市再開発、都市構造の変化を想起させられる。大阪は「維新政治」のもとで、格差と分断が進んできたが、JF という都市現象からも考えていきたい。

（2021 年 3 月 20 日）